

昭和39年度(昭和39年3月1日から昭和40年2月28日まで)事業報告

I. 会 議

1. 総 会

第49回通常総会 39年4月4日開催
議 事

- (1) 昭和38年度事業報告, 収支決算ならびに財産目録の件——承認可決
- (2) 昭和39年度事業計画ならびに収支予算の件——承認可決
- (3) 定款中一部変更の件——承認可決
- (4) 理事, 監事ならびに評議員選挙の件——別記の通り当選者決定

2. 評 議 員 会

昭和39年度第1回評議員会 39年3月10日開催
議 事

- (1) 名誉会員推挙の件——田中清治君, 伊藤隆吉君, 沢村宏君の推挙を決定

昭和39年度第2回評議員会 39年8月15日開催

- (1) 名誉会員推挙の件——角野尚徳君, 塩沢正一君, 西山弥太郎君, 広田寿一君の推挙を決定

昭和39年度第3回評議員会 40年2月17日開催
議 事

- (1) 昭和39年度事業報告, 収支決算ならびに財産目録の件——承認可決
- (2) 昭和40年度事業計画案, 収支予算案の件——承認可決
- (3) 次期理事, 監事ならびに評議員候補者推薦の件——決定
- (4) 創立50周年記念事業の件——承認
- (5) 名誉会員推挙の件——承認可決
- (6) 表彰規程変更の件——承認可決

3. 理 事 会

39年3月18日, 4月21日, 6月16日, 7月15日, 8月26日(臨時), 9月16日, 10月27日, 11月27日, 12月22日, 40年1月27日, 2月17日の11回開催し, 庶務並びに会計事項, 会員の入退会その他一般会務につき協議決定した。

4. 編 集 委 員 会

39年3月11日, 4月15日, 5月13日, 6月19~20日, 7月16日, 8月20日, 9月18日, 10月21日, 11月20日, 12月10日, 40年1月12日, 2月10日の12回開催し, 会誌の編集方針, 掲載論文の選定, 技術資料の収集その他会誌編集に関する一切の事項を協議処理した。

5. 企 画 委 員 会

39年3月10日, 4月17日, 6月9日, 7月7日, 9月8日, 10月20日, 11月17日, 12月15日, 40年1月19日, 2月16日の10回開催し, 事業運営上の諸企画につき協議立案した。また関係学会, 他団体からの表彰, 奨励金候補の推薦依頼に対し, 新たに表彰奨励候補選考小委員会を設け, 候補者の選考を行なった。

6. 研 究 委 員 会

39年3月16日, 4月17日, 5月20日, 6月17日, 7月17日, 9月10日, 10月23日, 11月18日, 12月11日, 40年1月22日, 2月19日の11回開催し, 共同研究会の運営方針, 基礎研究, 設備技術研究, 標準化など研究業務の企画推進につき協議立案した。

7. 支 部 長 会 議

39年4月6日に開催, 本部の事業計画の説明ならびに各支部の事業状況の報告があり, 本部, 支部間連繫に関する事項等につき協議した。

Ⅱ. 会 員

本年度において次の通り会員の異動があつた。

	名 誉	贊 助	維 持		外 國	正	学 生	計
			員 数	口 数				
昭和39年3月1日現在	21	31	203	4,928	33	7,722	773	8,783
入 会			8	10	77	510	293	888
退 会			- 4	-11		-220	-76	-300
死 亡		- 2				- 6		- 8
転 格	+ 7				- 5	+ 184	-185	+ 1
昭和40年2月28日現在	28	29	207	4,927	105	8,190	805	9,364

Ⅲ. 役員および常置委員

1. 理 事

39年4月4日開催の第49回通常総会において任期満了の理事および定款一部変更に伴ない増加する理事の選挙を行ない, 次の通り当選した。

茨木 正雄君 磐城 恒隆君 木寺 淳君
作井 誠太君 芹沢 正雄君 高尾善一郎君
辻畑 敬治君 松本 茂樹君 湯川 正夫君
(以上任期2年, 4月4日就任)

田畑新太郎君

(以上任期1年, 4月4日就任)

今井勇之進君 大浜 侃君 木下 正君
北原 光雄君 五弓 勇雄君 佐野 幸吉君
(以上任期2年, 6月8日就任)

4月4日開催の臨時理事会において互選により次の通り当選就任した。

会 長 湯川 正夫君
副 会 長 作井 誠太君 芹沢 正雄君
専務理事 田畑新太郎君

2. 監 事

39年4月4日開催の第49回通常総会において任期満了(半数)の監事の改選を行ない, 次の通り当選就任した。

奥村 虎雄君

3. 支 部 長

39年4月13日 東北支部長小野健二君任期満了退任、後任に今井勇之進君当選就任した。

39年3月1日 東海支部長内川悟君任期満了退任、後任に関口春次郎君当選就任した。

4. 評 議 員

39年4月4日開催の第49回通常総会において任期満了の評議員の選挙を行ない、次の通り当選就任した。

赤坂 武	葦沢 大義	網谷 俊平	綾部 先
荒木 透	伊木 常世	井関 剛	井村 荒喜
石田 四郎	石田 退三	石原 正美	石原 善雄
市川 忍	今井 光雄	今里 広記	入 一二
岩井 英夫	岩瀬 慶三	内川 悟	越後 正一
小田原大造	小野 清造	小野田武夫	太田 鶏一
太田 久男	大元 博	岡田 知彦	荻野 一
奥村 福次	香川 英史	香川 進	鍵和田暢男
金森 九郎	金森 祥一	川又 克二	川本 勇
川村 宏矣	河合 良成	喜代永政雄	岸本吉左衛門
北 耕二	北川 一栄	久米 定男	楠木 直道
黒田 勝正	桑田 賢二	小島 長作	小平 俊雄
小林佐三郎	駒井健一郎	近藤 八三	佐藤 知雄
西郷 吉郎	三本木貢治	清水 芳夫	志村清次郎
鹿喰 清一	芝崎 邦夫	菅野 猛	曾我野秀雄
荘 清彦	園田 一夫	田地川健一	田中 国雄
田村純治郎	高橋麟太郎	滝口 征夫	武田 喜三
武田 修三	俵 隆治	谷口 光平	谷村 照
土屋 勤	出淵 国保	中川不器男	中島 省一
中島 正保	中野 宏	中安 閑一	中山 育雄
西村吉太郎	野島福太郎	馬場幸一郎	萩原 巖
橋浦 彦三	橋本 宇一	原田 恵伍	日向 方斉
藤井 深造	藤川 一秋	藤木 俊三	堀田 秀次
堀田 之孝	松田 公扶	松塚 清人	松永陽之助
松原与三松	三谷 裕康	三井 太佑	宮下 俊二
宮代 彰	武藤 千秋	村田 巖	毛利 定男
森 暁	森 一美	森棟 隆弘	盛 利貞
八木貞之助	安原 武彦	柳 武	山本真之助
山本 博	養田 実	吉井 周雄	吉村タキノ
和田 亀吉			(敬称略)

39年3月19日 評議員浅田讓君死去、3月29日 評議員横山均次君死去。

5. 常 務 委 員

39年6月19日 常務委員を次の通り委嘱した。

秋田 武夫	伊木 常世	入 一二	内山 道良
川村 宏矣	木下 亨	菊池 浩介	梶山 正孝
武田 喜三	俵 隆治	名児耶 馨	松下 幸雄
三井 太佑	村田 巖	安原 武彦	(敬称略)

39年7月22日 常務委員を次の通り委嘱した。

桂 寛一郎君 下川 義雄君 森永 孝三君

6. 編 集 委 員

39年8月10日 編集委員を次の通り委嘱した。(敬称略)

阿部 秀夫	荒木 透	安生 浩	池田 義孝
加藤 健	菊地 敏治	草川 隆次	小犬丸胤男
沢 繁樹	城野 邦正	周藤 悦郎	高橋 俊雄
中川 龍一	中野 弘一	中村 正久	中山 忠行
原 善四郎	藤田 利夫	堀川 一男	若松 茂雄

39年11月25日 編集委員を次の通り委嘱した。

前田 一徳君

7. 企 画 委 員

39年7月18日 企画委員を次の通り委嘱した。

飯島 健一 久芳 正義 野村 純一 萩原 興吉 藤井東蒙男 矢野 武夫 (敬称略)

IV. 一 般 事 業

本年度における事業の概要は次の通りである。

1. 会誌の発行

「鉄と鋼」第50年第3号から第51年第2号まで12冊(うち、第50年第3号、第4号、第11号および第12号は講演論文集)を発行した。

なお、臨時増刊として次の通り発行、会員に配布した。第50年第7号 共同研究会鋼材部会鋼管分科会報告書 第50年第9号 共同研究会製鋼部会第3回報告書

「平炉製鋼法の進歩」

第51年第3号 創立50周年記念特集「鉄鋼技術の進歩」また欧文誌 Tetsu-to-Hagané Overseas を Vol. III No.4 ならびに Vol. IV No.1, 2, 3 を発行した。

2. 図書の編集、刊行

本年度において刊行した図書は次の通りである。

- 1) 「訪英鉄鋼視察団報告書」総括編、各論編
- 2) A. S. Samarin 著、川合保治、大谷正康訳 「鋼の脱酸の物理化学的原理」

「使用者のための鉄鋼技術講座」は既に第5巻まで完成発行し、目下第6巻「鉄および鋼材の規格と解説」の刊行準備を進めている。また、「高炉製鉄法の理論」(A. D. Gotlib 著、館充訳)の出版準備を進めた。別に、日本金属学会と共同で「鉄鋼材料便覧」を編集する準備を進めた。

3. 共同研究会

主として鉄鋼生産に関する現場的な諸問題を調査研究する共同研究会は、昨年度に引続き活潑な活動を行なった。製鉄以下14部会に分れ、各部会に専門別に分科会を設け、更に必要に応じ小委員会を設けて研究が行なわれた。40年2月1日現在における部会長、分科会主査はつぎの通りである。

製 鉄 部 会	部 会 長	林 敏君
製 鋼 部 会	部 会 長	井上 敏郎君
鑄 型 分 科 会	主 査	岡部 英雄君
(仮称 鉄鋼科学部会)		
圧延理論分科会	主 査	安藤 卓雄君
鋼 板 部 会	部 会 長	村田 巖君
分塊分科会	主 査	鍵山 正則君
厚板分科会	主 査	吉田 浩君
ストリップ分科会	主 査	豊田 茂君
条 鋼 部 会	部 会 長	杉沢 英男君
大形分科会	主 査	中島 泰輔君
中小形分科会	主 査	北村 洋二君
線材分科会	主 査	浅田 幸吉君
鋼 管 部 会	部 会 長	原田 芳君
継目無管分科会	主 査	井上 勝郎君
溶接管分科会	主 査	筒井統一郎君
特 殊 鋼 部 会	部 会 長	石原 善雄君

熱経済技術部会	部会長	藤本 一郎君
	副部会長	桑畑 一彦君
計測部会	部会長	桂 寛一郎君
	副部会長	磯部 孝君
秤量分科会	主査	中沢 尚次君
品質管理部会	部会長	辻畑 敬治君
調査部会	部会長	木寺 淳君
酸洗廃液分科会	主査	内田駿一郎君
新技術開発部会	部会長	遠藤勝治郎君
直接還元法分科会	主査	松下 幸雄君
真空冶金分科会	主査	井上 道雄君
鉄鋼分析部会	部会長	池上 卓穂君
発光分光分析分科会	主査	杉山 昇君
蛍光X線分析分科会	主査	川村 和郎君
ラテライト研究部会	部会長	松下 幸雄君
鋼質研究分科会	主査	山本 信公君
原子力研究部会	部会長	長谷川正義君
	副部会長	伊藤 伍郎君
	副部会長	新崎 正治君

このうち、調査部会では従来行なつて来た工業用水に関する調査を完了し、新たに運輸問題を取り上げ委員構成を一新して調査を開始した。

鉄鋼分析部会の鉄鉱石分析分科会は、昭和36年に設置されて以来27回におよぶ会議を開催し、21成分にも達する鉄鉱石中の各成分の分析方法のJIS原案を完成したほか、たまたまわが国が幹事国となつた鉄鉱石分析方法ISO原案作成の審議を行なつたが、一応その業務を終つたので、11月分科会を廃止した。

また原子力研究部会では、昨年度に引続き日本学術振興会第122委員会第3分科会および日本溶接協会と合同委員会を作り、科学技術庁原子力平和利用補助金2,500万円の交付を受け、総額8,400万円の研究費をもつて原子炉圧力容器用国産ASTM A302B鋼溶接部の照射試験を進めた。

なお、本年度は共同研究会としての報告講演会を2回開催した。第1回は39年4月5日東京大学工学部大講堂において開催、つぎの講演が行なわれた。

講演 低炭素鋼材におよぼす微量Ni, Crの影響について ラテライト研究部会長 松下幸雄君
最近の計測制御技術

計測部会副部会長 磯部 孝君
第2回は39年10月3日富山大学経済学部において開催、つぎの講演が行なわれた。

講演 最近の高炉技術の進歩について 製鉄部会長 林 敏君

圧延理論分科会共同研究報告 (熱間振り試験, 変形抵抗, 圧延機剛性について)

圧延理論分科会主査 安藤卓雄君
海水使用の障害とその対策

調査部会前幹事 道見寛之君
鉄鉱石分析方法の新JIS案について

鉄鉱石分科会主査 高野重徳君

4. 鉄鋼生産設備能力調査委員会

通商産業省で実施している鉄鋼生産設備能力調査の基準をなす能力算定基準を、最近における技術の進歩に

対応したものに改訂または新規作成するよう通産省から本会に対し依頼があり、本会では鉄鋼生産設備能力調査委員会を設け調査研究し、12月末に製銑, 製鋼, 圧延各設備の算定方式を作成, 答申した。この報告書は製銑関係では高炉銑, 電気銑, フェアラロイの各生産設備, 製鋼関係では転炉, 平炉, 電気炉, 鋼板関係では分塊, 厚板, ホットストリップ, コールド・ストリップ, 帯鋼の各生産設備, 条鋼関係は大形, 中小形線材の各生産設備, 鋼管関係はマンネスマン・プラグマンネスマン・ピルガミル, ユージン・セジュールクラックプレス, エルハルト, 電縫管, 鍛接管, UOE大径溶接管, スパイラル溶接鋼管の各生産設備の算定方式およびその解説からなり、総ページ数850ページ以上におよぶもので、外国にも類例のない広範, 詳細なものである。なお、さらに検討を行なうため委員会は引続き存続される。

5. 標準化委員会

従来から本協会は工業技術院の委託により鉄鋼に関する日本工業規格原案の作成を行なつて来たが、同様の委託が日本鉄鋼連盟その他に対しても行なわれて来た。しかし日本工業規格の原案作成は生産と需要の両面に対して技術的および学術的立場から検討しつつこれを行なうのが妥当であるとの工業技術院の方針に従い、以後は本協会が主となつて行なうことになつた。

このため協会内に新たに標準化委員会を設け、日本工業規格原案の作成のほかJISに制定するには時期尚早のものまたは特定のものに関し、日本鉄鋼協会規格の作成、さらに作業手引などのマニュアルの作成を行なう方針で進むこととなつた。39年度には「低温圧力容器用鋼板」, 「炭素鋼標準成分」, 「プレス用鋼板」, 「鋼材のチェック分析の許容変動」, 「鋼材の疵の名称および分類」, 「鉄鋼材料の高温引張試験方法」, 「平炉の熱勘定方式」の7件の工業標準原案作成の委託があり、前5件は本委員会に分科会を設けて、「高温引張」はクリープ委員会に、「平炉熱勘定」は共同研究会熱経済技術部会に依頼して審議を進めた。

また、39年11月印度ニューデリーにおいて開催されたISO, TC 17 (鋼) 第8回会議に本委員会から吉田委員、木山幹事が出席、その分科会、各working groupの活動状況も明らかとなつたので、ISOに関する問題を検討するため本委員会にブリキ、普通鋼、特殊鋼、機械試験の各分科会を設けることとなつた。

6. 鉄鋼標準試料の分譲

従来に引続き鉄鋼標準試料22種の分譲の求めに応じ、本年度における分譲数(39年3月~40年2月)は699本に達した。

八幡製鉄、富士製鉄、日本鋼管、住友金属工業、日立金属工業、日本特殊鋼の6社が製造を分担し、以上の各社のほか東京大学、名古屋大学、東北大学金属材料研究所、理化学研究所、金属材料技術研究所、東京工業試験所、日本製鋼所の各所が分析を担当し、それぞれこの事業に対し多大の協力援助を与えている。

なお、鉄鋼標準試料委員会では米、英、独、仏各国なみに標準試料を整備する計画を立案、所要経費の試算を行なつたが、100~200種類の試料を整備するためには、切削、調整などの作業を一括して行なう必要があ

り、それには極めて多額の経費を要することが明かとなつた。現下の経済情勢に鑑み、当分は現在の22種に当面是非必要とする数種程度を追加整備するに止めることとなつた。

7. 試験高炉委員会

東京大学生産技術研究所に設置されている1t試験高炉の試験に要する経費は、国費のほか約半額を高炉会社10社が負担している。その試験計画の立案、研究協力および試験結果の検討を鉄鋼側の立場から本会が行なうよう日本鉄鋼連盟から依頼があり、本会は新たにこのために試験高炉委員会を設けた。本年度は40年3月に実施予定の同試験高炉第16次操業の試験計画を立案、試験期間中高炉各社からの作業員派遣などの技術協力の方針を定めた。

8. 国内炭活用製鉄用コークス製造試験委員会

国内一般炭を活用して製鉄用コークスを製造し、原料炭の輸入を減少する目的で成型炭全量装入法による実用コークス炉試験を行なうために本会内に設けられた委員会で、高炉会社10社、石炭会社5社、コークス会社2社、通産省、科学技術庁、鉄鋼連盟、石炭技術研究所、石炭協会および本協会から各1名の委員から成っている。成型機はドイツ Köppern 社から輸入し、炉は八幡製鉄所洞岡コークス炉を使用する試験計画を立て、準備を進めた。試験研究費合計1億9250万円のうち、6,500万円は石炭技術研究所を通じて石炭技術振興補助金の交付を受ける。試験の実施は40年度となる。

9. クリープ委員会

鉄鋼材料のクリープ性質がますます重要視され、クリープに関する研究機関、団体の総合的活動が要望されているが、本会では材料学会、日本学術振興会第122委員会、クリープ試験技術研究組合からの要請もあり39年8月にクリープ委員会を設けた。組織としては2部会、2部、1分科会、幹事会から成っている。本委員会の当面の課題は、40年度に科学技術庁金属材料技術研究所内に設置される「材料試験所」を側面的に援助協力し、その有効利用を図ること、および工業技術院から委託を受けた工業標準原案「鉄鋼材料の高温引張試験方法」の作成である。

10. 資料委員会

鉄鋼の学術技術に関する情報、資料の収集、整理、広報を目的に38年度に設置された委員会であるが、本年度は活動も一層活発となつた。主要な成果としては、英国鉄鋼協会発行の外国文献英訳集 (Translation B.I.S.I.)の共同購入、国内および国外の鉄鋼各社のカタログ、パンフレット類の収集およびそのカード・サービス(2ヶ月に1回)、鉄鋼協会ニュース、資料速報、海外行事速報、カタログ速報(以上毎月1回)の発行がある。

11. 創立50周年記念事業委員会

昭和40年は本会創立50周年に当るので、その記念事業を遂行するため本会内に創立50周年記念事業委員会を設け、さらに業務別に記念出版、褒賞、外国人招待、式典の各小委員会を設けて記念事業の実行、準備を行なつた。記念出版のうち「鉄鋼技術の進歩」は「鉄と鋼」

臨時増刊として全員に配布した。本会50年史は40年4月6日の記念式典参加者に配布する。式典には英、米、独、仏、伊など主要15カ国の鉄鋼協会または業界の代表者を招待する。

12. 講演会、見学会、講習会の開催

(1) 春季講演大会および見学会

39年4月4日から6日まで3日間東京大学において春季(第67回)講演大会を開催、研究発表論文162、特別講演7。

4月7日、日本金属学会と共同で9班に分れ、大同製鋼平井工場ほか17カ所の工場、研究所などの見学を行なつた。

(2) 秋季講演大会および見学会

39年10月2日から4日まで3日間、富山大学経済学部および薬学部において秋季(第68回)講演大会を開催、研究発表論文216、特別講演12

10月5日、6日、日本金属学会と共同で10班に分れ、不二越、富山工場ほか16カ所の工場などの見学を行なつた。

なお、10月2日、「ペレットの性状とその使用について」を主題としてパネル討論会を行なつた。

また、10月3日、日本金属学会と合同で、一般市民を対象とした公開講演会を開催した。

(3) 特別講演会

39年4月4日 東京大学工学部大講堂において渡辺義介賞ほか各賞の受賞記念講演会を開催。

講演 $Al_2O_3(s) = 2Al + 3O$ 反応の平衡に関する

学振推奨値の決定について—

渡辺義介賞受賞者 沢村 宏君

〃 千葉製鉄所の経済的生産規模の検討—500万トンプラントの計画について—

服部賞受賞者 藤本 一郎君

〃 ペレット製造技術の発展と高炉における使用について

香村賞受賞者 土居 寧文君

〃 鉄鋼材料の高速衝撃引張諸性質について

俵賞受賞者 作井 誠太君

〃 特殊鋼製造における2, 3の問題点

渡辺三郎賞受賞者 山本真之助君

39年7月8日 東京大和証券ホールにおいて訪英鉄鋼視察団帰朝報告講演会を開催し、次の講演があつた。

講演 英国鉄鋼業一般情勢について 湯川 正夫君

〃 原料および製鉄製鋼関係に

ついて 芹沢 正雄君

〃 圧延関係について 吉田 浩君

〃 研究関係について 荒木 透君

なお、東京のほか名古屋、大阪、室蘭、仙台、八幡、富山の各市においても同様の報告講演会を開催した。

39年9月2日 東京・大和証券ホールにおいて、日本鉄鋼連盟と合同でソ連鉄鋼代表団の特別講演会を開催した。

講演 ソ連鉄鋼業の現状と将来 V.E. ボイコ氏

〃 溶鋼の真空処理 A.M. サマーリン氏

〃 連続鑄造設備 A.G. ラズーチン氏

39年11月6日 東京・ブリヂストンホールにおいて開

催.

講演 純酸素上吹転炉法の冶金学的考察

クライナー博士

40年2月18日 東京大和証券ホールにおいて開催

講演 欧米視察談 三島 徳七博士

〃 熱力学的原理の現場操業への応用に関する
会議に出席して 不破 祐博士

(4) その他

他学協会との共催または協賛により次の通り開催した。

第9回金属材料の強度と疲労シンポジウム

第1回理工学における同位元素研究発表会

第3回X線応力測定に関するシンポジウム

第7回高温強度シンポジウム

半導体冶金学セミナー

統計熱力学とその金属学への応用セミナー

鋼の加工熱処理セミナー

第8回材料試験連合講演会

第10回腐食防食討論会

第7回自動制御連合講演会

第7回標準化全国大会

第14回品質管理大会

第5回真空に関する講演会

第15回塑性加工連合講演会

第3回原子力総合シンポジウム

13. 表彰

39年4月4日第49回通常総会において表彰式を行ない、鉄鋼学術技術功労者に下記の賞を贈り表彰した。

服部 賞 藤本 一郎君

香村 賞 土居 寧文君

俵 賞 { 作井 誠太君

{ 中村 正久君

{ 大森 正信君

{ 布村 成具君

渡辺三郎 賞 山本真之助君

渡辺義介 賞 沢村 宏君

渡辺義介記念賞 井形 直弘君

井上 敏郎君

{ 小田 豊久君 { 金沢 武君

{ 板垣 浩君

{ 町田 進君

小池 与作君 粉生 宗幸君

佐藤卯三郎君 杉沢 英男君

中島 淳夫君 中島 泰祐君

西 三夫君 増本 健君

守田 貞義君 森永 孝三君

綿貫 友輔君

14. 対外関係

(1) 欧文会誌 Tetsu-to-Hagané Overseas を本年度において Vol. Ⅲ No. 4 および Vol. Ⅳ No. 1, 2, 3 の4冊刊行し、米、英、独、仏、ベルギー、スウェーデン、カナダ、スイス、印度、チェコスロバキア、ソ連、スペイン、オランダ、ユーゴスラビア、イタリア、デンマークなどの海外諸国の鉄鋼関係学協会、大学、図書館、研究所、諸会社に送付し、技術の紹介、交流に資した。

(2) 米、英、独、仏、印度、インドネシアその他の諸

国の鉄鋼会社その他の諸団体と引続き、会誌その他の印刷物を交換した。また資料委員会においてわが国鉄鋼各社のカタログを収集、主要製鉄国の鉄鋼関係の学協会を通じ、外国鉄鋼各社のカタログとの交換を行なっている。

(3) 会誌「鉄と鋼」掲載論文の翻訳依頼、技術などの照合なども、本年においてさらに増加した。

(4) 海外出張者に対し次の通り鉄鋼関係事項の調査を委託し、調査費を交付した。

1) 欧州におけるクリープ試験法および耐熱鋼の研究に関する調査

東京大学工学部助教授 藤田 利夫君

2) 欧米におけるクリープ試験法の研究に関する調査

京都大学工学部教授 平 修二君

3) 米国における製鉄製鋼に関する基礎研究についての調査

東北大学工学部教授 不破 祐君

(5) 訪英視察団の派遣

38年春の英国鉄鋼協会からの視察団の来訪に対する答礼をかね、本会は湯川会長を団長とする17名から成る視察団を39年4月から5月まで約3週間にわたり英国に派遣し、18カ所の鉄鋼工場、研究所、大学を視察した。

帰朝後東京および各地方支部において報告講演会を開催し、また「訪英鉄鋼視察団報告書」総括編、各論編を刊行した。

英国との視察団の交換により日英鉄鋼業界の親善は急速に深められ、その後も少人数の技術者の相互訪問が続いている。また、その他諸国のわが国に対する関心も次第に高まり、業界の代表者や技術者の来訪が次第に頻繁になつている。

V. 八幡製鉄渡辺記念資金による事業

1. 渡辺義介賞および渡辺義介記念賞の贈呈

2. 渡辺記念講演会の開催

北海道、東北、北陸、関西、九州の各支部において次のごとく渡辺記念講演会を開催した。

39年3月7日 八幡製鉄所技術研究所

講演 鉍鉄石選鉍技術の最近の進歩 松塚 清人君

39年5月15日 不二越教育センター

講演 真空冶金 長谷川正義君

〃 耐摩耗性溶射 近藤 正男君 大沢 真澄君

39年5月30日 京都ホテル

講演 昔ばなし 岩瀬 慶三君

〃 摩耗研究の30年 齊藤 省三君

39年6月5日 北海道大学工学部

講演 最近の自動車工業用金属材料の

現状について 森田 正俊君

〃 鉄鋼製錬工学の新しい方向について 森 一美君

39年11月6日 東北大学金属材料研究所

講演 わが国製鉄業の現況

特にその原料事情について 大原 久之君

- 40年2月12日 熊本大学工業技術研究所
 講演 最近における鉄鋼材料の進歩 堀田 秀次君
 40年2月27日
 講演 金属の強度 高村 仁一君

VI. 石原研究資金による事業

石原研究奨励金の交付

鉄鋼に関する研究の振興とその実用化を図るために設けられた石原研究奨励金を本年度において次の通り交付した。

溶融鉄合金と溶融スラグ間の界面張力に関する研究 大阪大学 荻野 和己君

VII. 地 方 支 部

北海道支部、東北支部、北陸支部、東海支部、関西支部、中国四国支部、九州支部の各支部においても、それぞれ講演会、講習会、見学会、研究会などを開催した。

VIII. 庶 務 事 項

1. 39年5月1日 昭和38年度事業報告、収支決算報告、財産目録、昭和39年度事業計画、収支予算書および第49回通常総会決議録を文部大臣に提出した。
2. 39年4月4日 理事の登記変更を東京法務局日本橋出張所に提出し、7月28日登記を完了した。
3. 39年4月4日 第49回通常総会の議決を経て定款の一部を下記の通り変更した。
 第19条中「1理事20名（うち会長1名、副会長2名、専務理事1名）」とあるを「1理事26名以上30名以内（うち会長1名、副会長2名、専務理事1名）」と改める。

付 則

1. 昭和39年度通常総会において選挙される理事1名の任期は、第23条の規定にかかわらず就任後第1回の通常総会の終るまでとする。
2. 第19条の変更定款の施行に伴ない増加する理事は、昭和39年度通常総会において選挙を行ない、変更定款の認可のあつた日に就任するものとする。
4. 39年4月30日 定款の一部変更認可を文部大臣に申請し、6月8日付で認可があつた。
5. 39年6月8日 理事の登記変更を東京法務局日本橋出張所に提出し、8月12日登記を完了した。